




国語科

**教科教育の特色と
2021年度入試の出題方針**

国語科主任 小泉智子




山脇学園の考える国語力

すべての教科を学ぶ**基礎力**としての**日本語力**

+

これからの社会で活躍するための**読解力・思考力**



国語教育で育てていきたい力

想像力 創造力


(感性 思考 表現)

<思考力・判断力>

- ・学問的思考を日常生活や自己のあり方と関連付ける力
- ・文学作品を通して時代を超えた物事の本質を学ぶ力

<主体性・対話力>

- ・他者との相対化の中で、自分の考えを見出す力
- ・自分の意見を論理的にまとめる力



取り組みの紹介 ～「知の技法の時間」～

- 2016年度中1より「**知の技法の時間**」を新たに実施。
- **人文科学、社会科学、自然科学**の文章を読んで、様々なテーマの「**答えのない問い**」について考える。
- 個別学習→ペア学習→グループ学習を通じて、多様な意見に触れることで、より**客観的で多角的な視点**から自らの考えを深めていく。
- 生徒が**自分自身の思考力・判断力**で答えを発見できるように、教師は「**論点の提示や整理**」や「**議論の活性化**」などの働きかけをするファシリテーターの役割をする。

「知の技法の時間」実施内容 <中1-1学期>

【テーマ:言葉】

第1回:「言葉」の働きについて考えよう
- 金田一 秀穂『15歳の日本語上達法』を読んで

第2回:「伝わる文章」について考えよう
- 飯間 浩明『伝わる文章の書き方教室』を読んで

第3回:「視点」について考えよう
- 森 達哉『たった一つの「真実」なんてない』を読んで

第4回:「場所」の紹介文を書こう
- 自分のお気に入りの場所を1つ挙げ、その場所を知らない人にもその魅力が伝わるように紹介する。

「知の技法の時間」実施内容 <中2-1学期>

【テーマ:多様性】

第1回:「文化の画一化」について考えよう①
- 青木 保『多文化世界』を読んで

第2回:「文化の画一化」について考えよう②
- 真田 真治『方言は気持ちを伝える』を読んで

第3回:「マイノリティ」について考えよう
- 渡辺 大輔『性の多様性ってなんだろう?』を読んで

第4回:『「違いがもたらす問題」を考えよう』
- 桜井 邦朋『「考え方」の風土』
保坂 俊司『宗教の経済思想』を読んで

「知の技法の時間」生徒のワークシートの紹介

中1国語 知の技法
「お気に入りの場所の紹介文」より

私のお気に入りの場所は、学校のなかにある自学館の自習室です。理由は自分が気に入っている場所だからです。自学館は学校で「学びのエリア」と言われていて、64席あります。机は教室の机より大きく、横に広いです。また、机のしきりは目がチカチカしない、ちょうどよいオレンジです。家で勉強や課題をやるとどうしても家にある誘惑に負けてしまい、勉強に集中できない、ということが毎回起こってしまいます。しかし自習室に行くことで集中して勉強することができます。また自習室は私語が禁止なので、静かな場所で落ち着いて自分が取り組みたい勉強をすることができます。そして、何より先輩方が周りで勉強にはげんでいる姿、頑張っている姿を見ていると自然に自分もやる気になり「勉強しよう」と思えるので、私は自習室を紹介しました。ぜひ一度は自習室にいったり勉強してみてください。

2021年度入試の出題方針



- **日本語の基本的な知識**や、文脈や場面に応じた**言葉の運用能力**を問う問題を出题します
- 中学・高校での国語の授業で必要となる**論理的思考力**のベースとなる**読解力**や**表現力**を問います

大問構成



- [一] **文章読解問題**(説明的文章)
- [二] **文章読解問題**(物語的文章)
- [三] **総合問題**(短い説明的文章の読解+意見論述型問題)
- [四] **知識問題**

[一]・[二] 文章読解問題



- 漢字や語句の意味などの**単純な知識問題は出題しません**
- **論理的読解力**や**思考力**を問う問題を中心に出題します
(主な出題内容)
 - ① 論理構成や文脈の把握(接続語の空所補充など)
 - ② 本文の内容の言い換えや要約
 - ③ 抽象的な考え⇔具体例の置き換え
 - ④ 登場人物の心情
 - ⑤ 論理展開や場面ごとの心情変化
 - ⑥ 本文全体をふまえた筆者の主張や、本文の主題 ⇒ 例年、大きく差がつくのはこのタイプの選択問題です
 - ⑦ 本文全体の表現の特徴 ⇒

※記述問題では指定字数の8割に満たない場合は減点となります。
※文末表現(「～こと。」「～から。」)の不備は減点となります。

[三] 総合問題



- 短い説明的文章の**内容読解問題**
- 説明的文章の本文中における漢字や語句などの**知識問題**
- **意見論述型問題**
(出題例)
 - ① 本文で書かれていることの**具体例**を自分で考えなさい。
 - ② 本文で書かれている問題の**解決策**を自分で考えなさい。
 - ③ 本文で書かれている問題についての**あなた自身の意見**を述べなさい。

※応用力や発想力を問う問題です。
※配点は文章題の記述問題と同じ程度です。
※答案の内容に応じて、部分点を与えています。

[四] 知識問題



- 漢字や語句、文法などの**知識問題**。
 - ※漢字の書き取り問題や読み問題は、小学校で習う1006字の中から出題します。
 - ※漢字の書き取り問題ではトメ・ハネのいい加減なものや、二画で書くべきところを一画で書いているものは、減点の対象となります。

拾 給

2021年度 午後入試の出題方針



- 国語の授業で必要となる**論理的思考力**や**読解力、表現力**を問います。

<一般入試と異なる点>

- **本文の文章量**が一般入試よりも**長め**です。
- **記述の長さ**が一般入試よりも**長め**です。
- 試験時間は一般入試よりも長い**60分**です。

大問構成



- [一] **読解問題**(説明的文章)
- [二] **読解問題**(物語的文章)

※ 漢字の書き取りや語句・知識問題を出題します。

※ 意見論述型問題を出題します。

※ 設問数やバランスについては過去問題をご参照ください。

国語

2021 年度入試のねらいと出題方針

出題方針

日本語の基礎的知識や言葉の運用能力、論理的思考力のベースとなる読解力や表現力を問います。

具体的な作問の方針

1. 読解問題を 2 題、総合問題を 1 題、知識問題を 1 題出題します。
2. ㊦・㊧の読解問題では、文章を読んで書き手の意図を論理的に読み取る力や、読み取った内容を論理的にまとめる力を問う問題を出題します。㊦・㊧では漢字の書き取りなどの知識問題は出題しません。
3. ㊨の総合問題では、文章中に出て来た言葉や表現に関する知識問題のほか、短い説明的文章の論旨をふまえて自分の考えをまとめる問題を出題します。
4. ㊩の知識問題では、漢字や語句、文法など、日本語の基礎的知識を問う問題と、知識の応用力を問う問題を出題します。
5. 漢字の書き取りや読みの問題は、小学校で習う 1006 字の中から出題します。

<問題構成>

- ㊦ 文章読解問題（説明的文章）
- ㊧ 文章読解問題（物語的文章）
- ㊨ 総合問題（文脈の中での知識・短い説明的文章の読解・意見論述型の設問）
- ㊩ 知識問題

<読解問題の主な出題形式>

- ① 選択形式（4 択が基本）
- ② 空欄補充形式
- ③ 抜き出し形式
- ④ 記述形式
 - 1 字数 a 字数指定なし
b 20 字程度
c 30～40 字程度（長くて 50～60 字）
 - 2 a 言い換え型（本文中の表現を別の言葉で言い換える問題）
b 要約型（本文の内容を整理して筆者の意見や登場人物の心情を説明する問題）
c 意見論述型（本文の内容をふまえて自分の考えを述べる問題。課題を発見する力や自分の意見を論理的にまとめる力が必要）

解答を進める上でのアドバイス

1. 読解問題では、本文中に解答の根拠となる部分があります。文章の書き手や出題者の意図を的確に読み取り、解答の根拠となる部分を見つけましょう。
2. 時間が足りなかったことが原因で解けなかった問題が生じないように、過去問を通じて時間配分と解答順序のイメージをつかんで本番に臨むようにしましょう。

採点基準と配点について

1. 配点は、㊦・㊧の読解問題が 70 点、㊨の総合問題が 15 点、㊩の知識問題が 15 点です。
2. 記述問題の採点では、根拠が部分的にでも書けていれば、受験生の理解度の程度に応じてできるだけ部分点を与えるようにしています。字数指定のある設問については、指定字数の 8 割に満たない場合減点の対象となります。
3. 漢字の採点については、漢字書き取り問題の場合は、トメ・ハネがいい加減なものや画数を 2 画で書くべきところを明らかに 1 画で書いているものは不正解としています。ただし、記述問題の解答中の漢字については、トメ・ハネや画数が多少乱れていても減点の対象とはしません。

2020 年度入試採点結果の分析

2020 年度入試では、A・C 入試ともに平均点が前年度並みでしたが、B 入試は前年を 8 ポイント上回る結果でした。ただ、国語の総得点が 50 点に満たない答案も目立ちました

特に□・□の文章読解問題の正答率が低い傾向が見られました。説明的文章において段落ごとの内容や文脈を把握し文章全体の構造を捉える練習や、物語的文章において場面を把握し登場人物の心情の変化を捉える練習といった文章読解問題を解く基本的な練習が不足していると思われる答案が少なからずありました。

得点上位者と得点下位者合格ラインで正答率に差がついた問題には、次のような特徴が見られました。

- ・傍線部の前後ではなく文章全体の構成や前後の文脈から答えの根拠を探して答える問題。
- ・本文に書かれている内容を別の言葉に置き換えて答える問題。
- ・比喩表現から筆者が述べようとしている事柄を結び付けて考える問題。
- ・本文からの抜き出しではなく、自分の言葉で考え、表現する問題。
- ・設問文に条件（句読点を含む・ひらがな表記など）がついている問題。
- ・解答に複数の要素（理由を含む・使用必須語句など）を必要とする説明問題。
- ・前後の文脈から判断する脱文挿入。

知識問題では、漢字の書き取り問題であまり差がつかなかった一方で、慣用句などの語句の知識問題は得点率が低く、解答順序のミスによるものか、全く手をつけていない答案も少なからずありました。

全体的に、読解問題の文章を読み解く練習にどれだけ取り組んだか、普段から読書などを通じて様々な表現に接する機会がどれだけあったかの差が、得点の差につながった入試であったといえます。

A 入試

□は、農業には、自然を破壊する一面と自然を創り出す一面があるということを説明した説明的文章の読解問題でした。大問全体の得点率は 41% でした。

得点上位者（55 点以上）と、得点下位者（44 点以下）で得点率に大きな差がついた問題は、問四、問六（3）、問八です。

特に、問八の脱文挿入は、得点上位者の正答率が 81% であったのに対し、得点下位者の正答率は 22% と、大きな差がつかしました。本文中の複数の情報を整理する力や、指示語の内容を文脈から正しく捉える力の差が点数を分ける結果となりました。

また、本文を並べ替える問題である問四も、得点上位者の正答率と得点下位者の正答率に大きな差がついた問題です。指示語や接続詞のつながりを前後の文脈から捉える力が必要です。

□は、ヒッチハイクで偶然知り合った少年と息子を亡くした男との手紙のやり取りを通じて、少年と男の心情が描かれる物語的文章の読解問題でした。大問全体の正答率は 43% でした。

得点上位者と得点下位者で大きく差がついた問題は問八です。

問八は、文の構成や表現の特徴を問う選択問題でした。選択肢にある比喩表現の理解や抽象的な語句の意味を文脈の中で捉えることができるかどうかの差が得点の差につながりました。

□は、「食品ロス」の問題について説明した説明的文章の読解問題と、文章中の漢字や語句についての知識問題を合せた総合問題でした。大問全体の得点率は 58% でした。漢字の書き取りは、得点上位者（55 点以上）と、得点下位者（44 点以下）にそれほど差がつかませんでした。一方、問四の脱文挿入の問題と条件不足の解答が見られた問六の意見論述問題が得点の差につながりました。

□は、問一が慣用句の問題、問二が同じ漢字を用いる語句の問題です。問二は、得点上位者、得点下位者を問わず、どの問題も概ね高い正答率でした。小問ごとの正答率は、問一が 33%、問二が 84% でした。漢字の書き取り問題ではあまり差がつかなかった一方で、語句の問題では知識の差が得点差につながりました。

正答率

- 問一：(A)33% (B)48% 問二：50% 問三：13% 問四：50% 問五：33%
問六：(1)90% (2)46% (3)66% 問七：26% 問八：42% 問九：40%
全体：41.1%
- 問一：93% 問二：38% 問三：73% 問四：7% 問五：(1)33% (2)38%
問六：25% 問七：33% 問八：73%
全体：43.7%
- 問一：(a) 27% (b) 52% (c)85% 問二：67% 問三：59% 問四：67%
問五：63% 問六：49%
全体：57.9%
- 問一：(1)52% (2)50% (3)12% (4)28% (5)23%
問二：(1)50% 87% (2)88% 92% (3)90% 92% (4)87% 97% (5)78% 82%
全体：56.1%

B 入試

正答率

- 問一：(A)87% (B)62% 問二：18% 問三：72% 問四：25% 問五：65%
問六：20% 問七：50% 問八：22%
全体：41.1%
- 問一：47% 問二：95% 問三：90% 問四：45%
問五：80% 問六：73% 問七：45% 問八：22%
全体：58.9%
- 問一：(a) 90% (b)93% (c)88% 問二：70% 問三：65% 問四：40%
問五：48%
全体：61.1%
- 問一：(1)18% 22% (2)73% 75% (3)18% 20% (4)18% 20% (5)30% 20%
問二 (1)73% (2)57% (3)37% (4)15% (5)27%
全体：34.9%

C 入試

正答率

- 問一：(A)87% (B)67% 問二：85% 問三：(1)69% (2)63% 問四：27% 問五：55%
問六：25% 問七：13% 問八：38%
全体：46.8%
- 問一：70% 問二：45% 問三：36% 問四：23% 問五：41% 問六：50%
問七：(1)34% (2)80% 問八：29% 問九：23%
全体：41.0%
- 問一：(a) 85% (b) 93% 問二：35% 問三：48% 問四：47%
問五：52% 問六：11%
全体：42.6%
- (1)100% (2)88% (3)85% (4)63% (5)78%
(1)52% (2)88% (3)88% (4)2% (5)27%
全体：61.9%

※正答率はランダムに抽出した答案をサンプルとして集計したものです。

2021年度 午後入試のねらいと出題方針

出題方針

日本語の運用能力、論理的思考力のベースとなる読解力や表現力を問います。

具体的な作問の方針

1. 読解問題を2題出題します。
2. 文章を読んで書き手の意図を論理的に読み取る力や、読み取った内容をふまえて記述をまとめる力を問う問題を出題します。
3. 文章題の中で、漢字や語句などの知識問題、意見論述型問題を出題します

<問題構成>

- 文章読解問題（説明的文章）
- 文章読解問題（物語的文章）

<出題形式>

- ① 選択問題
- ② 空欄補充問題
- ③ 抜き出し問題
- ④ 記述問題（50～80程度の長めの記述問題を含みます）

採点基準と配点について

配点は、・ともに50点です。

2020年度入試採点結果の分析

2019年度より新たに実施した入試方式ですが、国語1科目で受験できる入試方式であるため、国語が得意な受験生が多く、高得点者が目立つ結果となりました。ただし、初年度に比べると受験生の学力の差が大きく、得点差が開きました。

設問の種類ごとの特徴としては、記述問題で得点上位者と得点下位者の点差がつく傾向が見られました。特に各大問に設けた80字の記述問題は、配点も大きいいため、得点上位者と得点下位者で大きな点差がつく結果となりましたが、前年度と比べると無得点の答案が減り、対策を立てて臨んだという印象を持っています。一般入試では、記述問題よりも選択問題や抜き出し問題で差がつく傾向が見られましたが、午後入試ではこれらの問題の正答率が高く、ここではあまり差がつきませんでした。

国語の読解力のレベルが一定以上の受験生が多かったため、基本的な読解力を問う設問を解けることを前提とした上で、最終的には記述力が高い受験生が合格ラインを上回る得点に到達したというのが、今回の入試結果であったといえます。

午後入試

□は、「なぜ生物には車輪がないのか」という古くからある謎に生物学者である筆者が進化論を軸に意見を述べている説明的文章の読解問題でした。大問全体の得点率は53.7%でした。

得点上位者(55点以上)と、平均点を得点下位者(44点以下)で得点率に大きな差がついた問題は、問三、問五、問九です。

特に、「車輪の欠点」について説明している、ひと続きの二文を抜き出す問五は、得点上位者の正答率が80%であったのに対し、得点下位者の正答率は29%と、大きな差がつかしました。本文中の情報を整理する力や、設問の条件を正しく捉える力の差が得点を分ける結果となりました。

一方、50字の記述問題である問四(正答率38%)は、概ねよく書けていた80字の記述である問七(正答率79%)や他の選択問題より正答率が低く、誤答の多くが設問の条件である「理由も含めて」内容を説明する問題であるにも拘らず、理由のみを説明した解答になっていました。設問条件の見落としは、今回、全ての日程において、得点下位者に多く見られた不正解パターンでした。

□は、小学四年生で母を亡くした主人公が、母の三回忌法要をめぐる、父と継母との間で揺れ動く心情の変化を描いた物語的文章の読解問題でした。大問全体の正答率は63.1%でした。

大人になった主人公の回想で物語が展開していくため、多少読み取りが難しい場面もありましたが、正答率が高い設問が多くありました。その中で、得点上位者と得点下位者で差が付いた問題は、問六D、問九です。

問九は本文全体の内容説明について、適当なものを選ぶ選択問題です。登場人物それぞれの心情が細部まで読み取れているかが求められた問題だったため、得点下位者の正答率は29%、一方、得点上位者の正答率は84%で、高いレベルでの読解力の差が得点差につながる結果となりました。

正答率

□ 問一：(A)95% (B)90% 問二：75% 問三：69% 問四：38% 問五：58%
問六：34% 問七：79% 問八：7% 問九：52%

□全体：53.7%

□ 問一：80% 問二：47% 問三：(A)97% (B)50% (C)90% 問四：87%
問五：63% 問六：(D)55% (E)85% 問七：87% 問八：44% 問九：62%

□全体：63.1%

※正答率はランダムに抽出した答案をサンプルとして集計したものです